

新しい社会貢献の形

米国ロックフェラー家の伝統から日本の新しい潮流へ

開催日時

2020年 11月 15日 (日) 10時 00分～12時 00分

主催(共催)

一般財団法人社会変革推進財団
アジアン・ベンチャー・フィランソロピー・ネットワーク
認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

* * *

事業で成功を取めた企業経営者の方々等が、その資産の活用の一環で財団や基金を設立し、資産継承や会社の経営の継続性にも配慮した社会貢献を行い、自ら主導的に社会問題の解決のための事業を企画するなどの事例が、グローバルで、そして日本でも多く見られるようになってきました。これらの動きを踏まえて、「資産を活用した新しい社会貢献の形ー米国ロックフェラー家の伝統から日本の新しい潮流へー」と題したラウンドテーブルを、日本で社会貢献活動を行っている、あるいは、これから始めようとしている約20名をお招きし開催いたしました。

スピーカーには、米国からロックフェラー家出身であり自らファミリー・フィランソロピーを実践してきた Peggy Dulany 氏をはじめとする先駆的なフィランソロピストを招聘し、それぞれの社会貢献活動についてお話を頂きました。また、プレゼンテーションの後には、日本の参加者と共に、それぞれのフィランソロピーに関する課題などをオープンに議論し、互いに思索を深める場となりました。

ここでは、グローバルで活動するフィランソロピスト達の活動報告の概要をご紹介します。



Peggy Dulany 氏

Synergos 創業者兼会長

>> PROFILE

Peggy Dulany 氏は、信頼と集団行動を構築するブリッジング・リーダーシップを推進することで、世界中の複雑な問題の解決を支援する世界的な組織である Synergos の会長である。

若い頃にリオデジャネイロで生活し働いていた経験から、劣悪な生活環境に最も影響を受けている人々は、問題を解決するための最大のエネルギーとモチベーションを持っていること、そして彼らに欠けている資源は、必要な変化がコミュニティ全体に影響を与えることができる経済的・政治的な領域とのつながりであると気付いた。

Peggy 氏は 1986 年に Synergos を設立し、草の根グループと政府や企業のリーダーや組織との間の信頼と協力を促進し、そうしなければ互いに接触することができなかった人々が長期的な関係を築き、貧困を克服するための新たな道を切り開くことができるよう取り組んだ。2001 年には、父である David Rockefeller 氏と共に、このアプローチを利用しフィランソロピーを実践する家族たちを支援するために、Synergos' Global Philanthropists Circle を共同設立した。彼女のキャリアには、公立高校の中退者のためのプログラムを率いたり、国連やフォード財団とヘルスケアや家族計画に関するコンサルティングを行ったり、National Endowment for the Arts と非営利団体の経営と計画に関するコンサルティングを行ったりすることも含まれる。ニューヨーク・シティ・パートナーシップの上級副社長を務め、青少年雇用、教育、地域社会問題プログラムの責任者も務めた。

Peggy 氏は Radcliffe College を優等生で卒業し、ハーバード大学で教育学の博士号を取得している。Stone Barns Center for Food and Agriculture や Rockefeller Brothers Fund、そして Africa-America Institute など、30 以上の非営利団体や企業の役員を務めた経験がある。モンタナ州では牧草飼育の肉牛の飼育と牧場の運営、ナミビアではエコツーリズム事業という、社会的責任を果たす 2 つの事業を営んでいます。また、Synergos を通じて、参加者に人生の最も深い目的を考えるための安全な空間を提供するリトリートのガイドも務めている。

🌐 Synergos ウェブサイト：<https://www.synergos.org/>

フィランソロピーとは、単にお金を与えるだけではなく、
自分の信念や情熱、影響力、スキルなど、
自分自身の全てを集結し、グループを作り、
意見の違いを超えて信頼関係を築くこと

>> SPEECH SUMMARY

私の曾祖父のジョン・ロックフェラー氏の母親は敬虔なクリスチャンであり、彼女が残した博愛主義の伝統は一族の中に脈々と受け継がれています。それに加えて私の人生を大きく変えたのは、大学時代にブラジルのリオデジャネイロにあるファベラ（不法占拠者居住地）で過ごした経験でした。そこでは、最も貧困に苦しむ人々は貧困から抜け出す意思やイニシアチブ、そのための創造力すら持っているものの、それだけでは貧困から抜け出すことができず、異なるセクター間の協力が必要であると学んだのです。また、父と共に訪れたモザンビークで Joaquim Chissano 大統領夫妻や Graça Machel 氏から感銘を受けたことも、反アパルトヘイトの慈善家・活動家として活動するきっかけとなりました。

分断が進む現在、社会が直面する問題を解決するためには、人々がパートナーシップを組んで仕事をする必要不可欠であり、インパクト投資やフィランソロピーの最先端に行く人々にとっても相乗効果を生む方法を見つけることが、ますます必要になってきていると考えます。この考えに基づき、世界の34ヶ国から約100組の家族が参加する「グローバル・フィランソロピー・サークル」を作りました。また、フィランソロピーには価値観の承継も重要だと思います。そのような価値観は、食卓の席で会話をしたり、子供たちを自分たちが資金提供しているプログラムに同行させたりすることで伝えていくことができます。

私からの最も重要なメッセージは、フィランソロピーとは単にお金を与えることだけではないということです。幸運にも手を差し伸べることができ、快適な場所から一歩踏み出すことができる私たちにとって、ブラジルの不法占拠者居住地、またはあなたが働くと選んだ場所、に住むような人々との信頼関係を築くためには、自分とは異なる人々を理解しようとするのが不可欠なのです。

フィランソロピーとは単にお金を与えるだけではなく、自分の信念や情熱、影響力、スキルなど、自分自身の全てを集結し、グループを作り、意見の違いを超えて信頼関係を築くことなのです。



厚子フィッシュ氏

創業者兼会長フィッシュファミリー財団 創設理事

Japanese Women's Leadership Initiative 創設者

Champion of Change Japan Award チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞 /

JWLI Bootcamp 創設者

>> PROFILE

フィッシュファミリー財団を 1999 年に創立。同財団は、移民に市民権を与えるプロジェクトや、低所得世帯（特に移民、もしくは 貧困・母子家庭）を支援する団体の援助を目的として活動。また、異文化交流に取り組むプログラムや団体の援助も行う。

2011 年 3 月の東日本大震災以降は、被災者支援活動に尽力し、総額約 100 万ドル（約 1 億円）を寄付で調達し、東北で活動する 19 団体に助成金として送る（2013 年 3 月活動終了）。

2006 年には、日本における 社会問題解決や社会変革を目指す女性のためのリーダーシップ育成研修プログラム、Japanese Women's Leadership Initiative (JWLI) を設立。2013 年には、女性のエンパワーメントへの貢献が認められ、ホワイトハウスより Champion of Change Award を受賞。同じように日本社会で地域社会に根ざし活動している女性に光を当てることを目的に、2017 年にはチャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞を、2019 年には JWLI Bootcamp を設立。2018 年には、日本のソーシャルセクターの女性リーダー育成への功績が認められ、旭日小綬章を受賞。

🌐 JWLI ウェブサイト：<http://jwli.org/>

>> SPEECH SUMMARY

私は 60 歳で仕事を退職した後、「人生 100 年、これからどんな風に生きようか」と夫のラリーと相談していた時に、充実した残りの人生を生きがいを持って生きたい、そして次世代に社会に還元すること、すなわち人間として、社会の一員として、何をしていくことが大事なのかを伝えたいという目的で、20 年前、1999 年に家族財団をボストンで作りました。この財団では、移民に市民権を与えるプロジェクトや、低所得世帯（特に移民、もしくは母子家庭）を支援する NPO 団体の援助、さらに人種差別や偏見への取り組みを行なっています。

そして、日本のソーシャルセクターにおける女性リーダー育成のため様々な取り組みをしています。2006 年にはボストンにおける 4 週間の現地研修を行う JWLI (Japanese Women's Leadership Initiative) を設立しました。また、日本の地域社会に根ざし活動している女性に光を当てることを目的に、2017 年にはチャンピオン・オブ・チェンジ

日本大賞を、2019年には JWLI Bootcamp を設立しました。さらに JWLI エコシステムを立ち上げ、“Women Leading Social Change in Japan and the world”として、日本の女性達が世界の女性と結びつき、より良い世界を共に築いていこうという構想を掲げています。コロナ禍の取り組みとしては、ボストンでは非正規移民に対する現金給付を中心とした緊急支援を行い、日本の JWLI エコシステム内の女性リーダーに対しては、同じく緊急支援、そして非常時に必要なニーズに合わせた支援を行っています。

フィランソロピーの魅力は、よりよい未来を自分の手で作り出すことができることです。そして社会課題に真摯に取り組む素晴らしい方達にお会いできるチャンスがあります。社会的に弱い立場に置かれている人々に寄り添うヒーローたちに会い、感動と勇気をもらいます。これこそが Joy of giving の真髄です。

そして大切なことは、少額でも We can make a difference、社会に変化をもたらせます。21年の経験から実感しています。多額の資金は必要はなく、少額で変化をもたらせる素晴らしさがあるのです。

それからフィランソロピーは、想像力豊かに、革新的かつたくさんの人を巻き込んだ大きな変化をもたらせます。こんな楽しいことはありません。フィランソロピーを生きがいとして、毎日が充実しています。ぜひ皆さんにも、変化は楽しいという気持ちを、フィランソロピーを通じて実体験していただければと思います。

GUEST SPEAKER #3



Kyung Sun Chung 氏

Root Impact 創設者

Root Impact CIO (Chief Imagination Officer)

Holistic Growth Initiative (HGI) CEO

>> PROFILE

Kyungsun Chung 氏は、韓国のインパクト投資会社である HG Initiative (HGI) の創設者であり、会長を務める。また、韓国のコワーキングスペース「HeyGround」を通じてインパクトエコシステムを構築する非営利団体「Root Impact」の創設者兼チーフ・イマジネーション・オフィサー (CIO) でもある。

昨今、Kyungsun 氏は「Sustainable Future Alliance (SFA)」と題したインパクト・イノベーション・プラットフォームの構築に取り組んでいる。このプラットフォームは、大企業とインパクトスタートアップを結びつけ、持続可能なインパクトエコシステムを構築することを目的としている。

Kyungsun 氏は、アジア各地でフィランソロピーとソーシャル・イノベーションに関する講演を頻繁に行っている。

また、ロックフェラー・フィランソロピー・アドバイザーズの役員を務め、ImPact の共同設立者でもある。

🌐 Root Impact ウェブサイト：<http://rootimpact.org/en/intro.php>

>> SPEECH SUMMARY

私の祖父は、韓国で最大の基金である Asan 社会福祉基金を始めました。そして、ファミリーが起業家支援の新しい財団、Asan Nanum 基金を設立することを決めました。私は大学生の頃からフィランソロピーに関心があり、その財団で働き始めましたが、自ら、ミレニアル世代としてより実験的な取り組みをしたいと考え、2012年に、ファミリーの財団からスピンオフして、韓国のチェンジメーカーや社会起業家支援を行う Root Impact を設立しました。“インパクトエコシステム”の構築を掲げて、Impact Basecamp などのチェンジメーカーへプログラムを提供するだけでなく、Co-living house や Co-working space などチェンジメーカーの職や住のデザインを通じたコミュニティづくりにも積極的に取り組んでいます。

さらに 2017 年には韓国初のチェンジメーカーのための co-working community である HEY GROUND を設立しました。このコミュニティには 250 以上の社会的企業や非営利団体が集まっており、多くのコラボレーションやイノベーションを生み出しました。

現在は非営利活動からは離れ、主に気候レジリエンスや再生可能エネルギーなどの技術を対象としたインパクト投資に力を入れています。私たちは、多くの非営利団体や社会的企業が非常にインパクトのある革新的なソリューションを開発し、それらを大企業がビジネスモデルに採用して初めてより大きなインパクトを与えることができると考えています。インパクト投資を通じて、アジアの大企業と協力して、非営利団体や社会的企業が持続的にインパクトを生むためのビジネスモデルを探しています。

GUEST SPEAKER #4



James Chen 氏

Legacy Advisors Ltd 創設者
Wahum Group Holding 会長
Vision for a Nation 共同設立者

>> PROFILE

James Chen (www.jameschen.vision) は香港を拠点に活動する慈善家である。彼は「ムーンショット・フィランソロピー」という概念を提唱しており、ビジネス投資と同様に、損失を吸収するための資本や専門知識、問題に対する深い理解を、長期的な変化をもたらすための活動に投入することである。

James はこの手法を用いて、幼児期の識字率向上と世界最大の解決されていない障害である視力障害に焦点を当てている。Clearly (www.clearly.world) (EST 2016) の創設者であり、22 億人の人々に明確なビジョンをもたらすことを目的とした世界的なキャンペーンを展開している。James は自身の著書である「Clearly: How a 700 Year Old Invention Can Change the World Forever」に、自身の使命と眼鏡へのユニバーサルアクセスを実現するための障壁について明記している。

革新的な混合価値投資家として、James は可変パワーレンズ技術の会社 Adlens (www.adlens.com) (2005 年設立) を共同設立し、また、受賞歴のある慈善団体 Vision for a Nation (www.visionforanation.net) (2008 年設立) の創設者であり評議員を務めており、世界中でアイケアを利用できるようにする活動を行っている。Vision for a Nation は、わずか 5 年の間に、ルワンダで変革的で持続可能な眼科医療サービスを確立し、現在では 1200 万人の全人口が利用できるようになった。現在はガーナにも進出し、プログラムを展開している。

James はベンチャー・フィランソロピーの先駆けとして、Chen Yet-Sen Family Foundation (www.cysff.org) (2003 年設立) を設立し、妻の Su Lee と共にベンチャー・フィランソロピーの活動を開始した。妻の Su Lee と共に、家族の識字率向上を促進する NGO 「Bring Me a Book Hong Kong」 (www.bringmeabook.org.hk) (2006 年)、the Feng ZiKai Chinese Children's Picture Book Award (www.fengzikaiaward.org) (2008 年) を設立した。James は彼の家族が経営する Wahum Group Holdings の会長でもある。

🌐 James Chen 氏のウェブサイト：<https://www.jameschen.vision/>

>> SPEECH SUMMARY

私は三代目のフィランソロピーであり、世界的な問題に対するハイリスクな解決策のための資金調達に人生を捧げてきました。

今日のフィランソロピーの課題は、世界で最も差し迫った問題を解決するための資金が不足していることです。だからこそ、私は慈善事業はリスクを伴うものでなければならないという信念のもと、ムーンショット・フィランソロピーをご紹介できることを嬉しく思います。世界を変えるような真の変化を生み出すためには、フィランソロピーはリスクを取る考え方をもち、専門知識を身につけ、必然的な挫折を乗り越えなければならない。ムーンショット・フィランソロピーは、起業家的で既成概念にとらわれないアイデアに資金を提供することで、失敗を私物化し、成功を社会化することができます。

眼鏡が発明されてから 700 年が経ちましたが、世界では 22 億人の人々がいまだに視力が悪く、10 億人以上の人々が眼鏡を手に入れることができません。私は 17 年間、誰もがどこでも視力矯正を利用できる社会を目指して、ムーンショットの旅を歩んできました。これまでに、9 つのイニシアチブにリスクキャピタルを投資してきました。

私のムーンショット・フィランソロピーは、誰もが眼鏡を利用できる世界の実現に向けて継続していきます。そして、私のムーンショットの旅が、他の人たちが慈善活動の快適なゾーンから一歩踏み出して、ムーンショットの旅を粘り強く続けていくことを促してくれることを願っています。



一般財団法人 社会変革推進財団

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号 M-City 赤坂一丁目ビル6階

TEL : 03-6229-2622 (代表)

E-MAIL : info@siif.or.jp

URL : <http://www.siif.or.jp>